

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



習慣について

先日の夕方、小長井駅まで歩いていると、小長井中学校の生徒さんが「こんにちは」とあいさつをしてくれました。私とは面識がない生徒さんでしたが、何か気負うこともなくごく自然体でのあいさつでした。私も「こんにちは」と返したところでした。

朝、校門の所で立っていると、ほぼ全員「おはようございます！」と気持ちの良いあいさつをしてくれます。また、職員室に入ってくる子たちの中には「先生、こんにちは」とあいさつを添えて入ってくる子もいます。

先程の生徒さんも小学生の時からあいさつの習慣がついていたからこそ自然体のあいさつができたのだらうと思います。

誰彼構わずあいさつをするのは、思わぬことに巻き込まれかねないという心配もある昨今の風潮もありますが、せめて学校の中や自分の地域の中くらいは自然体のあいさつができる習慣はあってもいいと思っています。

.....

放課後、戸締りをしながら校内の様子を見てみると、ちょっと気になることがありました。

それはトイレのスリッパです。本校は校舎内に子どもたちが日常的に使うトイレが4カ所（男女各2カ所）あります。採点を◎△×で表すと、◎1、△2、×1という感じでした。×の1カ所はスリッパが踊っているのかな？と思える感じでした。

日本は場所が変わると靴を脱ぐ、履き替えるという文化です。家に入る時は靴を脱いで上がる場合がほとんどです。ご家庭で、お子様が脱いだ靴はどうでしょうか？

「三つ子の魂、百まで」ということわざがあります。幼少期の習慣は年を経てもその人の中に息づいているということです。

私自身、百とは言わなくとも還暦が見えてきている年齢に達しようとしています。それでも幼い時に身についた（身につけさせられた）ことは、役立っていることが多くあると感じます。例えば、身の回りの整理整頓をする習慣がその一つとして挙げられます。

一方で、習慣づいていないものもあり、苦勞することもあります。字を丁寧に書くことはいまだに苦手です。

年齢を重ねて、自然と解消する習慣もあるかと思いますが、よりよい習慣を子どもたちには身につけてあげたいものだと思います。